



資本主義の怪物 銀行という魔の金融システム

**銀行は資本主義において、
非常に楽にお金を稼げる存在
⇒金融資本主義の申し子**

信用創造というインチキ

信用創造
= 存在していない金を
生み出す錬金手法を
銀行は持っている

預金準備率

＝信用創造を行うために銀行が保有しなければならない預金額の割合（％）

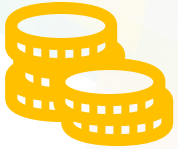
預金準備率
経済学の教科書では、10%
日本では、おおよそ、
正規性預金0.05～1.2%
その他の預金0.1～1.3%

預金準備率が1%の場合

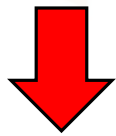
銀行は100万、口座に預けられると
その全額を日銀に預け、
最大9980万を借り手の口座の通帳に
記入できる

⇒100万（現金）から9980万（通帳口座
上の記入）の信用=1億が創造される

銀行A



現金100万円



貸出99万円



銀行B

口座上の99万

預金



預金1万円



日銀

預金9900円

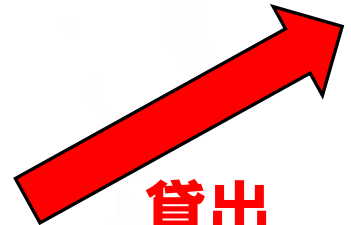
$100\text{万円} \div 0.01$
 $= 1\text{億円が創造}$

預金9801円



銀行C

口座上の98万100



貸出

97万299円

別の銀行へ貸出
(ループ)

貸出98万100円

預金準備率が1%の場合

元の100万から、9980万という
存在しない金が、社会に創造される

⇒銀行は金利ビジネス
貸す金額が大きければ大きいほど
儲かる

**日本の現在の準備預金制度の
割合（％）は、0.1％ほど**

**この場合、100万の預金があれば、
10億円が口座上に創造される**

**※預金者は、お金をすべて引き出さない
という信用の上で成り立っている**

準備預金制度のもとでは、

**銀行は、信用（口座上の金）を、
元手現金から100～1000倍以上、
生み出せる**

**その水増しした金額に利子をつけて、
ぼろ儲けしているのが銀行業**

**例えば、みなさんが住宅ローンを
30年返済、3000万（年利5%）で
借りた場合、**

**借り手側は、計5800万を
30年間で返済する計算となる
約2800万、上乗せでの返済となる**

**例えば、みなさんが住宅ローンを
30年返済、3000万（年利5%）で
借りた場合、**

**銀行側は、3～30万の預金があればいい
（預金準備率0.1～1%の場合）**

**初月返済利息12万ほど×3か月の支払いで
元の預金分は回収済みになる**

⇒その後30年は、ぼろ儲けタイムに入る

**また、借り手が返済できなくなったときは、
借り手の財産のうち、借り手が今後、
一応生活できる最低水準以外を、**

すべて没収することができる
**（元手はほとんどかけていない
にもかかわらず）**

補足：銀行業に**不良債権**という概念はない

単純に言えば、日本の政府が、日本の銀行を欧米に譲り渡すため、わざわざ銀行に一般企業のような会計制度を導入し、借り手の返済能力の低いローンを『不良債権』と呼び、それが多い銀行は不健全であるとした。

実際は、借り手がローンの100分の1とか、1000分の1を返した時点で、すべてのローンは不良債権でないのにもかかわらず

アメリカでは、**預金準備率0%**という情報も

貸出1000万



**3年支払い年利5%
計約79万返済**

貸出1億



**3年支払い年利5%
計約789万返済**

貸出3000万



**3年支払い年利5%
計約236万返済**



銀行A

預金0円

3年で約1100万の収益

末恐ろしいシステム

**この膨れ上がったお金を
返し続けるのは、99%の一般人**

**⇒非常に不自然なシステム
膨張した虚構のお金は
必ず破綻する仕組みにある**